

【巻頭特集】

モノプラス株式会社 / 大音和豊  
MONO PLUS INC.

Kazutoyo Ooto



株式会社アイテック / 飯田勝康  
ITEC CO.LTD.

Masayasu Iida



株式会社DG TAKANO / 高野雅彰  
DG TAKANO CO.LTD.

Masaki Takano



ぶせないとか。それ以外の穴は、いくらでも抜け放題。後から追いかけてくる会社は、その抜け穴に気づくかどうかです。だから、できるだけ多くの抜け穴をつぶせるような書き方しておかないといけません。知的財産をゲームとして見ると、それが面白いんだろうと思います。頭脳対決ですよ！それが特許の醍醐味じゃないのかなと思います。

大音 弁理士にも得意分野とか不得意分野とかあるのでしょうか。

高野 あります。うちがお願いしている弁理士さんは製造業系に強いです。より上位概念での取り方のテクニックを知っています。また、文章中に「例えばこんなことが考えられる」と例をあげる時、わざと図面を自社製品とは違う事例にして追いかけてくる会社にダメの情報を出します。それだけでも、だいぶ抜けられるまでの時間稼ぎができますね。

### 産学連携における知的財産の考え方

大音 飯田さんの会社のように大学と組んで研究開発をしていく場合、敷居が高いと言うか、やはりいろいろとハードルがあると思います。

飯田 私の場合は、大学の研究活動に詳しい知人がいて、その人の紹介でマッチングしたというのがコラボのきっかけです。大学は相手を選びますので、有力な紹介者を見つけるとかそれなりの筋の通し方が重要になります。

大音 大学との共同開発がスタートした後のご苦労とかもあるのではないのでしょうか？

飯田 大学のシーズが産業界に行き着くまでには“デスバレー（死の谷）”と呼ばれる期間がありまして、それを超えない限り商売にはならない。ビジネスの世界と違って、時間がかかりますね。

大音 そこをビジネスにしていくために何か秘訣のようなものはありますか？

飯田 自分でリスクを負って積極的に提案をしていくことです。受け身ではなく、自分のペースをどう持つか。要するに、当社からすれば大学をどう利用するか、ということです。逆に大学からすれば民間の企業をどう利用するかを考えているはずですよ。

高野 大学と一緒に組んで発明したものの権利はどちらに属するのでしょうか？

飯田 大学によって違いますが、私の会社の場合は50対50ですね。当社に事業化する権利があり、大学はビジネスをやらない代わりに不実施補償という形でロイヤリティを持つということですよ。大学発の技術で、世界に初めて発信したのと言えれば箔がつき、広告宣伝効果があるのはメリットです。

### 知財活用こそ日本再生の突破口

高野 私は東大阪で事業を行っていますが、まわりを見渡しますと、非常に高い技術を持つ会社が多いのですが、それぞれの皆さんが受注産業という立場に甘んじておられるように感じます。優れた加工技術があれば、それを使って独自の新しい技術なり製品を開発することは可能だと思います。渡された図面の通りにモノを作るっていうのは、それは素晴らしい能力なのですが、世の中にないものを新しく生み出すのとは全然違う能力なんですよ。

飯田 それは私も非常に感じます。技術に創造力を組み合わせると、会社がメーカーとしてブランドを発信していく。

高野 そうなんです。その方向にシフトしていくことが今後大切だと思います。作るだけだったらどんどん新興国でやれますから。

大音 本当におっしゃる通りですね。クリエイティブな人材が実際に現場にいるのか、ということですね。

飯田 下請けになるのではなく、新しいものづくりのチームとしてやっていくとかね。そういうフォーメーションが面白いなと思います。

高野 日本は新しいものを開発し、作るのは新興国に。日本では付加価値が高い仕事にシフトしていかないとイケない。

飯田 シフトする方法はありますよね。単純な繰り返し作業をロボットにやらせるのも一つ。

高野 そうですね。人間は、人間にしかできない仕事をするべきです。

大音 そういったクリエイティブな仕事をするとなると、特許、知財というものがさらに重要になってきますね。クリエイティブなものづくりが本当の日本の再生であり、徹底して自分が主導で作っていくことが大切という結論。今日は深いお話を聞くことができました。飯田さん、高野さん、ありがとうございました。

### profile

#### 株式会社アイテック

「エコロジー&サイエンス」をキーワードとした技術開発に力をいれ、21世紀のニーズに応じた各種超臨界装置やクリーンエネルギー利用技術の実用化を目指している。

堺市堺区神南辺町 4-132-1  
TEL.072-226-8853  
<http://www.itec-es.co.jp/>

#### 株式会社 DG TAKANO

高精度で金属を切削・加工する技術を生かし、驚異的な浄化力を持つ節水ノズルを開発。モノづくり日本会議と日刊工業新聞社主催「2009年“超”モノづくり部品大賞」大賞を受賞。

東大阪市若江東町 4-6-26  
TEL.06-7492-3466  
<http://designers-g.jp/>

#### モノプラス株式会社

プレゼンテーション用試作品製作、3Dプリンターによる製品出力、3Dスキャンを活用した3Dデータ作成、プロダクトデザインなどを通して中小メーカー向け商品開発支援を行い、ものづくり産業発展に貢献している。

大東市住道 1-9-8  
TEL.072-813-2307  
<http://www.mono-plus.jp/>